

応援



震災体験談



海老名市市長室危機管理課長
二見 裕司さん

平成3年に友好都市の盟約を締結した神奈川県海老名市と白石市は、その後交流をさらに深め、平成6年には、姉妹都市の盟約を締結し、姉妹都市交流がスタート。そして平成22年4月には白石市の姉妹都市である北海道登別市とともに「3市による災害時応援協定」を締結しました。

そのような中で、3月11日、東日本大震災が発生しました。事態の重大さを認識し、午後3時15分に災害対策本部を設置。協定書に基づき白石市の状況を確認するよう努めました。しかし回線がパンク状態で電話が繋がらない状況が続き、午後6時半ごろにやっと白石市とつながりました。明日の食料にも事欠くという厳しい状況を伝えられました。

早速、支援物資の搬入活動に入ったのですが、困ったことに東北自動車道は不通となっており、陸路での救援物資の搬送は困難と判断。急遽提携を結んでいた米海軍厚木航空施設と連絡を取り、ヘリコプターによる搬送を要請しました。翌日の3月12日には、海老名市で備蓄していたアルファ米(3,000食)、パンの缶詰(2,376食)を厚木基地に搬入。福島県上空が飛行できなかったために迂回を余儀なくされ、海上の海軍の船で給油するということも行っています。

その後も現地のニーズに合わせて市で備蓄していたもの、新たに購入したものの、市内企業からの寄付などの搬送を継続的に行いました。

日が経つにつれて、白石市役所では、さまざまな業務が発生し、職員に大きな負担がかかる状況になりました。そこで、行政事務員の派遣という人的な支援も開始。「り災証明書」の発行業務を応援するために、家屋調査の経験を持つ職員や一級建築士の資格を持つ職員などを3名ずつ、3週間にわたって派遣しました。

今回の震災では白石市への支援を通して、刻々と時間が経つにつれて支援物資の状況が変わってくるということを勉強しました。このいただいた貴重な経験を活かし、海老名市の備蓄に関しても見直しをかけています。



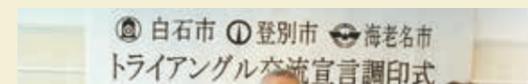
9 応援・支援

市内、県内をはじめ、全国からたくさんの人的支援、支援金、物資などの温かい支援をいただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。

1 災害協定を締結している自治体・団体・企業

本市では、東日本大震災までに、民間企業や自治体と災害時の物資提供や自治体間の相互応援に関する協定を締結していましたが、震災直後から復旧に至るまでに協定を運用し、被災者支援や復旧活動にあたりました。震災発生直後は電話が繋がりにくい状況となり、協定を締結している自治体や民間企業と連絡を取ることも難しい状況でしたが、震災直後から復旧に至るまでに協定を運用し、被災者支援や復旧活動にあたりました。

締結年月日	相手方	協定等名称	主な内容
平成18年6月8日	みやぎ生協	災害時における支援協力に関する協定	生活物資を優先供給
6月26日	国土交通省 七ヶ宿ダム管理所	災害時の放流警報設備を利用した 災害情報伝達支援協定	放流スピーカーや電光掲示板を活用し、 災害情報や避難情報を迅速に伝える
7月4日	(株)ビッグレンタル	災害時における レンタル機材の提供に関する協定	移動式トイレや発電機などの レンタル機材提供
平成19年10月17日	白石建設職組合 (社)宮城県建築士会 白石刈田支部	危険家屋の危険度判定などの 災害協定	危険家屋の危険度判定などを行う
平成20年2月8日	(株)ヨークベニマル	災害時における支援協力に関する協定	生活物資を優先供給
3月6日	白石市福祉施設 連絡協議会に加盟の 8法人組合	災害時における 福祉避難所(要援護者の受け入れ施設) に関する協定	高齢者や障がいのある方で避難の際、 人の支援を必要とする方を受け入れる
5月14日	東北電力(株) 白石営業所	災害時における電力設備 復旧に関する協定	早期の電力設備回復を行う
6月2日	白石市自治会連合会、 白石市民生委員 児童委員協議会、 白石市社会福祉協議会	災害時要援護者台帳および 災害福祉マップに関する4者協定	要援護者の台帳とマップを作成し、 安否確認などをスムーズにする
平成22年4月10日	海老名市 登別市	危機発生時における 相互応援に関する協定	3市が相互に協力・応援し、 人員派遣や物資の支援を行う



海老名市の内野優市長(左)、白石市の風間康静市長(中)、登別市の小笠原春一市長(右)

海老名市【神奈川県】

神奈川県は、ほぼ中央に位置した田園風景が広がる都市。古くからの歴史を誇る街でもあり、秋葉山古墳群や相模国分寺跡といった貴重な文化財を数多く有しています。

登別市【北海道】

北海道の支笏洞爺国立公園に位置し、「登別温泉」などの温泉郷が人気。戊辰戦争後に白石城主の片倉邦憲一行が新天地として開拓。登別市の基礎を築いたと伝えられています。

震災時でも強かった「絆」 登別・海老名・白石の3市のトライアングル交流

平成23年4月29日、神奈川県海老名市役所において、3市間の交流宣言調印式が行われ、全国から注目を集めました。

登別市と白石市は昭和58年に、海老名市と白石市は平成6年に姉妹都市を提携し、文化・教育・経済などの分野でそれぞれに交流を図ってきました。平成22年には「3市による災害時応援協定」を締結。さまざまな分野での交流に加え、災害時には相互に支援・協力しあう関係づくりを目指し、「トライアングル交流」を宣言しました。

白石市は震災直後から、両市よりさまざまな支援を受けました。海老名市は、市内の芝生広場に白石市を象徴するブナと「困難に耐える」という花言葉のスモモの木を白石市の復興を祈願して植樹。また、登別市は飲料水や粉ミルク、ブルーシートなどの応援物資を提供するほか、市内の観光施設で白石の物産展を開催。さらには調印式後、両市から風間市長へ復興支援金が手渡されました。

2 姉妹都市・友好都市の応援・支援

(1) 姉妹都市の登別市・海老名市

本市は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を教訓に、姉妹都市である北海道登別市と神奈川県海老名市の両市と個別に災害時応援協定を結んでいました。

宮城県沖地震や東南海地震の発生が懸念される中、平成22年4月にこれまで締結していた応援協定を発展させ、3市による相互応援協定を締結しました。

東日本大震災発生後、この協定に基づき登別市と海老名市は本市への物資支援を決定しましたが、登別市では本市までの輸送手段が確保できなかったため、海老名市に支援物資の輸送を委ねました。発生翌日の平成23年3月12日、陸路での支援物資の搬送が困難であったため、海老名市は神奈川県厚木市の米軍基地で海軍のヘリコプターを手配し、アルファ米や備蓄用パンの缶詰などの物資を本市に届けました。

また、同年3月13日には、運搬車両の燃料不足が深刻となったため、本市と海老名市の市職員担当者が両市のほぼ中間地点である栃木県矢板市で待ち合わせ、水や乾電池、トイレトペーパーなどの支援物資を受け取りました。

平成23年3月12日から18日（16日除く）までの6日間にわたり両市から支援を受けました。

支援物資のほかに、寄付や支援金が届きました。また、海老名市からは人的支援も受けました。

■海老名市からの人的支援

派遣期間：平成23年4月3日～平成23年4月23日

派遣職員等：行政職員 9人

活動内容：被災住宅認定調査



■登別市・海老名市から届いた主な支援物資

日付	主な支援物資
平成23年3月12日	アルファ米 3,000食
	備蓄用パン 2,376食
平成23年3月13日	トイレトペーパー 3,744ケース
	ラップ 780本
	カップ麺 カップスープ 96食
	ラップミニ 240本
	紙おしぼり 1,200本
	粉ミルク(850g) 30缶
	幼児用おしりふき 216パック
	紙コップ 1,613個
	カイロ 660個
	平成23年3月14日
平成23年3月15日	レトルトご飯 2,350食
平成23年3月17日	紙おむつ(大人用) 9,080枚
平成23年3月18日	ブルーシート 300枚
平成23年5月17日	自転車 20台
平成23年8月24日	エコック(玩具)24L/30箱

(2) 姉妹都市のハーストビル市(オーストラリア連邦)

平成6年10月にオーストラリア国のハーストビル市との間で姉妹都市の盟約を締結。それ以来、国際交流を継続的に行っています。

東日本大震災の発生直後には、多くのハーストビル市民から心配やお見舞いのメールが届きました。震災年度のハーストビル市からの中高生の白石市訪問は震災の影響により中止となりましたが、本市の中学生10名と引率2名がハーストビル市を訪問しました。ハーストビル市からも市民の代表が白石市を訪問。被災状況などを視察しました。

(3) 友好都市の札幌市白石区(白石区ふるさと会)

白石区ふるさと会は、昭和51年3月に設立。同年4月に本市と白石区が友好都市を締結して以来、交流を行ってきました。

震災からの復旧へと、区民から募金を募り、平成25年8月までに4,450,593円の寄付が届きました。

(3) 寄付金

海老名市、登別市、上田市

(4) 義援金(日本赤十字社・中央共同募金会など)

死亡者の家族や家屋の全壊、大規模半壊、半壊の世帯に支給されました。これまでに688件416,921,800円(平成25年8月27日現在)が支給されました。

4 企業・個人の応援・支援

(1) 支援物資

市内、県内をはじめ、全国の企業・個人から、食料・飲料、毛布、洋服、カセットコンロ、日用品などたくさんの物資をいただきました。



(2) 寄付金

市内、県内をはじめ、全国の企業・個人の方から、多くの寄付金をいただきました。

■白石市東日本大震災に係る復興寄附金受入現在高
440件 86,984,514円

■白石城復興寄附金受入現在高
309件 18,162,538円

■ふるさと納税寄附金(震災復興分)受入現在高
58件 2,184,400円

合計 107,331,452円
(平成26年2月28日現在)

■白石市への応援・支援協力名簿一覧■

113カラオケ会、330-A地区ライオンズクラブ有志、JAみやぎ仙南農協、NEXCO東日本、朝日新聞、朝文堂、アツギ、ウエルパーク、カキヤ、公立刈田総合病院、白石警察署、かまどや、きちみ製麺、加次食品、群馬県地域防災センター、コココーラ柴田仙南営業所、国際ソロプチミスト海老名、斎藤建設、日本不動産研究所、蔵王ビュルズ、サッポロ一番仙台支店、佐藤こうじや、サンインテルネット、サンヨー食品、自衛隊、スーパービッグ、みやぎ生協、関谷薬局、セコム、仙加苑、ソニー白石セミコンダクタ、大上、ダイドードリンコ、高野製麺、高橋建設、東北電力白石営業所、トーカドエナジー、ドコモショップ白石店、ドリームズハート、ニチレイフーズ、日清食品、日本赤十字、八海クリエイツ、ファミリーマート蔵王駅前店、福島県国見町社会福祉協議会、宮城県倉庫協会、宗像会計事務所、メークス、ヤクルト白石センター、山崎製パン仙台工場、ヤマザワ、山田乳業、白石川西堀農園愛護会、雪印種苗、ヨークベニマル、白石モーター、東海理化、西松屋チェーン、フクダ、大沼焼麩店、東京都管工事工業協同組合水道局請負工事連、北海道登別市議会、中央特殊興業、聖運寺、海老名市都市間交流協会、登別市姉妹都市等都市間交流協会、首都高電気メンテナンス、大庭スポーツ、川井石油、丸山、羽山自動車工業、上西産業、平間栄商店、鎌先温泉旅館組合、小原温泉旅館組合、宮城交通、白石市管工事業組合、白石市建設職組合、白石市左官組合、宮城建築士会白石刈田支部、仙南環境公社、白石市医師会、白石歯科医師会、宮城県歯科医師会、宮城県薬剤師会、白石商工会議所、白石青年会議所、奥州白石温麺協同組合、白石戦國武将隊奥州片倉組、山崎パニラ、森川智之、白石市民生委員児童委員協議会の皆さん、白石市災害ボランティアの皆さん、各小中学校・高校・公民館の皆さん、各自治会・自主防災組織・消防団の皆さん、森合建設造園、マクドナルド、菊地タクシー、仙南信用金庫、NECトーキン(株)白石事業所、パチンコ ダイナム、(株)富士薬品伊達営業所

そのほかにも個人の方々から多くのご支援・協力をいただきました。記載漏れやお名前間違いがありました場合はご容赦ください。また、敬称は略させていただきます。(平成23年3月31日時点・順不同)

トーカドエナジー株式会社白石工場

企業支援

地域に根ざす企業としての支援活動 給水作業延べ31名

電池パックを中心に蓄電用電池ユニットや蓄電システムなどの開発と生産を行うトーカドエナジー株式会社白石工場。2011年2月27日に新工場建設に向け地鎮祭を終え、さあこれからというところで震災に遭遇しました。

機械の被害、ライフラインのストップにより、すぐに工場再開ができない状況でしたが、「次に何ができるかみんなで考えよう」と翌日10時に集まり、部隊を分けて地域の復旧ボランティアを行うことに。会社からの指示ではなく、従業員からの自然発生のアイデアで実施されました。市と相談し、給水活動を行うことに決定しました。

3月15日から18日の4日間、延べ31名が参加。上下水道事業所に7時45分に集まり、各指定の給水場所へ。たくさんの人が給水に来ましたが、重くて自宅まで運べない高齢者の手伝いもしました。

工場では片付けをする中で炊き出し部隊を設置。がれきを運んでいた業者にも「入ってご飯だけでも食べていって」と声掛けをしたり、スポーツセンターに避難している南相馬の方から「お米が食べたい」という話を聞いておにぎりを持って行ったりしました。市に寄付金20万円も提供しています。

「若い人間がいっぱいい仕事ができないから力をもてあましていただけ」と口をそろえますが、初動の段階ですぐにボランティア活動ができたのは、消防団優先企業となったり、市民綱引き大会に参加したりするなど、地域とともにあるという意識が会社の風土になっていたからではないでしょうか。震災後BCP(事業継続計画)のマニュアルを策定。地域復旧のためのボランティア活動についてもしっかり組み入れられています。

3 各自治体などの応援・支援

(1) 各自治体からの人的派遣

県外：(福岡県)福岡市、大牟田市、飯塚市、大野城市、直方市、春日市、(熊本県)熊本市、八千代市、(長崎県)長崎市、(群馬県)沼田市

派遣期間：平成23年3月28日から平成23年4月5日

活動内容：下水道施設の被災状況調査

(2) 支援物資(9団体)

県内：宮城県、仙台市

県外：群馬県、群馬県沼田市、農林水産省、福島県国見町社会福祉協議会、群馬県地域防災センター、長野県上田市

「山形県長井市」「岩手県奥州市」「宮城県白石市」 中間距離トライアングルで相互支援



長井市の内容重治市長(左)、白石市の風間康静市長(中)、奥州市の小沢昌記市長(右)



「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結

平成24年5月17日、本市と山形県長井市、岩手県奥州市の3市が「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。この協定は、地震や風水害などの大規模災害が発生した時、物資の提供や復旧・復興に必要な人材の派遣、避難者の受け入れなどを相互に行うものです。協定締結は、3市長が「東北ダム事業促進連絡協議会」の正副会長を務めていたことがきっかけ。

東日本大震災の教訓から、「陸路で2時間圏内の距離に位置し、太平洋側と日本海側にあるなどバランスも良く、迅速・確実な支援が期待できる」として、平成23年秋から締結を検討してきました。宮城県庁で行われた締結式で、奥州市の小沢昌記市長は、「災害が大規模化しており、中間距離の自治体の連携が重要」と締結の意義を強調。長井市の内容重治市長は、「協定を機に、互いの市民が関心を持ち、災害時だけでなく市民同士の交流も深めていきたい」と話し、風間市長も「この協定により、それぞれの市民に安心感を届けることができる。平時の地域交流も深めていきたい」と、市民間の交流にも期待を寄せました。

協定では食料や飲料水、毛布、医薬品など平時から相互に確保しておく物資をあらかじめ指定したほか、人的支援や被災者の受け入れなどを通して、避難生活や復旧・復興を迅速にサポートする体制を整えました。平成22年4月に、姉妹都市である登別・海老名両市と締結したトライアングル応援協定は、東日本大震災時に大きな力を発揮しました。これは市民同士の平時からの交流によるところが大きかったとも言われています。長井・奥州の両市とも平時の交流が活発に行われ、どんな災害にも負けない「絆」が育まれることが期待されます。

長井市〔山形県〕

山形県南部に位置し、酒田から最上川を經由して米沢に至る舟運の港町として栄えた商業都市。朝日・飯豊・出羽の緑豊かな山系に囲まれ、「水と緑と花の長井」をキャッチコピーに、あやめ公園や白つつじ公園、久保桜などの観光名所があります。

奥州市〔岩手県〕

岩手県南部に位置し、平成18年、水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の5市町村が合併して誕生。「蘇民祭」で有名な黒石寺や、えさし藤原の郷などの平安ロマン薫る名所のほか、前沢牛、南部鉄器などの伝統産業が盛んです。

出身地である白石市にエール。

山崎パニラさん(活弁士)



観光大使はまさに、本市と他県をつなぐ「橋渡し」のような存在。そんな、地域の魅力を全国に広げる「白石すまいる大使」第1号に、活弁士・山崎パニラさんが就任。平成23年3月8日、「白石市観光大使委嘱状交付式」が行われました。

しかし、その3日後に東日本大震災が発生。信じられないという思いの中、パニラさんが生まれた本市のために観光大使としてできることとして思いついたのが、ツイッターやブログで白石の情報を発信することでした。

ライフラインの復旧の状況であるとか、支援物資の配布のお知らせなどを発信。さらには白石の広報を変換して掲載したりと、パソコンが得意なパニラさんならではの情報ボランティアに、アクセス数も増え、感謝のメールも数多く届き、市民からも「助かります」というメッセージが多数寄せられました。

その後も、本市を応援する活動を行ってきたパニラさん。「白石の曲を作ろう」と思い立ち、誕生したのが白石の魅力が満



白石市観光大使第2号として見参!! 白石戦国武将隊 奥州片倉組

山崎パニラさんに続き第2号となる観光大使となった白石戦国武将隊奥州片倉組。平成23年5月3日にいきぎプラザで開催された委嘱状交付式には隊員全員が甲冑武者姿で出席。風間康静市長から委嘱状を受け取った後、「まずは白石市から震災復興を」と氣勢を上げました。

その後奥州片倉組は、観光PRのために県内外で自主的に活動してくれています。また、ブログではメンバーそれぞれが個性あふれるコメントで活動を報告。全国ファンが奥州片倉組を通して被災地に思いを寄せてくれました。東京都池袋の宮城ふるさとプラザでは義援金の街頭募金活動に協力したり、ブログで震災への応援メッセージを全国に発信したりしてくれました。観光だけでなく復興のシンボルとして、白石市・宮城県・東北の復興のために活躍されています。

載の応援ソング「白石よござりす」。作詞・作曲・編曲・演奏・歌・動画編集まで一人で担当されました。各種イベントでも披露され、大好評を得ています。

平成23年6月11日には「東日本大震災チャリティーコンサート〜被災地へ届け! 1,000人の想い〜」が白石城本丸公園で開催され、パニラさんは司会を担当。最後には出演者全員がステージに立ち、観客と心をひとつにして被災地に向け黙禱を捧げました。

よさこい走乱白石城10周年記念イベントでは、子どもたちと一緒に「白石よござりす」を踊りました。被災地を勇気づけるパニラさんのステキな笑顔が輝いていました。



『戦国BASARA』の縁で被災地支援 森川智之さん(声優)

平成23年6月3日、『戦国BASARA』で片倉小十郎を演じている森川智之さんが白石市を訪れ、東日本大震災で被害を受けた白石城などを見学しました。

森川さんはMOVIX利府で先行上映された映画『劇場版戦国BASARA』の舞台あいさつのため来県。風間市長と懇談した森川さんは「小十郎に出会ったのは運命で、白石市を第二のふるさとだと思っています。みんなで元気よく声を掛け合ってこれからもバックアップしていきます」と話され、「東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県の被災者の皆さんにお届けください」と風間市長に義援金を託しました。

6月14日、風間市長が宮城県庁を訪れ、森川さんからお預かりした義援金を村井知事に手渡しました。